



# 日本スーパーマーケット協会

## 平成18年8月 マンスリー レポート

集計企業数 **60** 社

### 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	39,560,688 万円	100.0%	105.3%(102.9%)	37,783,283 万円	102.3%( 99.9%)
食 料 品	32,322,448 万円	81.7%(80.4%)	106.2%(103.7%)	30,841,607 万円	102.7%(100.2%)
農 産	4,805,685 万円	12.1%(11.1%)	112.3%(106.6%)	4,587,934 万円	108.6%(103.2%)
水 産	3,475,010 万円	8.8%( 9.0%)	105.4%(103.0%)	3,327,847 万円	102.1%( 99.8%)
畜 産	3,383,894 万円	8.6%( 8.5%)	104.5%(103.0%)	3,223,311 万円	100.7%( 99.2%)
惣 菜	3,353,850 万円	8.5%( 7.9%)	107.4%(105.2%)	3,175,675 万円	103.2%(101.0%)
日配食品	7,427,893 万円	18.8%(18.7%)	105.7%(102.5%)	7,069,100 万円	101.8%( 98.8%)
加工食品	9,876,116 万円	25.0%(25.2%)	104.1%(103.3%)	9,457,740 万円	101.4%(100.1%)
生活関連	3,164,789 万円	8.0%( 8.1%)	102.2%( 99.0%)	3,062,054 万円	100.5%( 97.8%)
衣 料 品	1,821,832 万円	4.6%( 5.5%)	101.3%( 99.0%)	1,757,700 万円	100.2%( 98.3%)
そ の 他	2,251,619 万円	5.7%( 6.0%)	101.8%(101.4%)	2,121,922 万円	101.0%(101.2%)

### 数 値

全店総売上高	39,560,688 万円	店 舗 数	3,538 店舗
総売場面積	6,085,281.1 m <sup>2</sup>	総従業員数	175,691 人

店舗平均月商	11,181.7 万円	平均客単価	1,910.0 円
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.5 万円(6.2 万円)	平均店舗面積	1,720.0 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	21.5 万円(20.5 万円)	パート比率(前月)	75.4%( 74.7%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 全体概況

- ・ 先月の状況とは変わり、8月度は天候も安定したことにより、夏物商材が全般的に好調な売れ行きを示した
- ・ 野菜や果物については、全体的に相場高であったため、売上げとしては大幅に伸張した。また、生魚についても、マグロや養殖魚を中心に相場高が続いている
- ・ 既存昨比が前年をクリアした企業が多いが、チラシの強化やポイントカード導入の効果に頼る状況であり、回復基調ではあるがまだまだ厳しい状況に変わりはないという慎重な声が多い

## 商品動向

### 農産

- ・ 野菜については、全般的に相場高となり、売上げ点数は昨年を割ったが、売上げ高は好調に推移した
- ・ 季節商品である枝豆は好調に推移するも、とうもろこしは不作で売込みができず不振となった
- ・ 果物については、すいかやメロンが好調な売れ行きを示した。しかしながら、梨や桃は不作であったことから、数量も揃わないばかりか糖度も低く不振となる

### 水産

- ・ 天候の回復および土用二の丑が8月4日であったことから、うなぎが売上げ昨比110%~130%と好調に推移した
- ・ さんまについては、水揚げの遅れおよび高値で推移したことにより不振となる
- ・ 丸魚は引き続き厳しい状況が続いているが、刺身については、いか・あじ・かつおなどの大衆魚を中心に好調に推移した

## 畜産

- ・ 牛肉の高値安定および豚肉の相場高により、売上げは昨年をクリアした
- ・ 気温が高くなったことから、焼肉商材が好調に推移した。特に、焼肉セットや豚肉焼肉用が好調であった

## 惣菜

- ・ 気温の上昇とともに、セット麺などの夏物商材が好調に推移した
- ・ 夏休みの昼食およびおやつニーズとして、丼物や焼きそば、たこやきなどが好調に推移した

## 日配・加工食品

- ・ 日配食品では、気温の上昇とともに、夏物商材である冷やし中華やアイス、果汁飲料などの売上げが回復するも、牛乳については引き続き不振となる
- ・ また、健康志向によるニーズだけでなく、野菜の高騰が後押しし、野菜飲料が大幅に伸張した
- ・ 豆腐においては、引き続きこだわり商品を中心に好調が続いており、品揃えを拡大しているところが多い
- ・ 加工食品では、気温の上昇とともに、飲料および酒類が好調に推移した。特にミネラルウォーターの伸びが大きい
- ・ また、7月までは低調であった乾麺やつゆなどの夏物商材の売上げが軒並み好調であった

## その他

### ～お盆商戦について～

- ・ おもてなしメニューである寿司や刺身、オードブルなどの盛り合わせが好調に推移した。野菜では、煮物商材だけでなく、サラダ商材が好調であった
- ・ 果物ギフトは前年並みの状況。ぶどうやメロンなどの箱販売は苦戦したものの、フルーツ詰め合わせギフトが好調であった
- ・ 落雁については、昨年並みもしくは若干下回る状況であった。バラは売上げ減少するも3段セットなどが好調に推移した
- ・ お盆らしさが年々薄れている傾向からか、手間のかからない寿司や刺身などの売上げの伸びが高くなっている

### ～秋物商材の動向について～

- ・ おでんについては、バラ販売を早々に展開しているところは好調に推移している。また、1人前のカップ入りおでん(100円)はお手頃な価格でもあることから好調に推移している
- ・ 松茸については、不作により品不足。特に中国産については、価格も大幅に上昇しており、販売を中止したところもある
- ・ さんまについては、水揚げの遅れや価格高騰により昨年を下回る販売状況
- ・ 中華まんについては、お盆明けより売り込みを強化している企業は好調である

以上